

琵琶湖部会中間取りまとめに対する意見

一般から寄せられた中間とりまとめへのご意見のうち、琵琶湖部会中間取りまとめに対する内容を取りだしたものです。

- ◆ 地下水、伏流水の役割と保全をめぐる記述が必要（007）
- ◆ 5 - (3) : 環境学習体験学習の重要性及びそれにかかわる人々の育成について要言及（015）
- ◆ 都市型河川をめぐる問題点の参考記述（017）
- ◆ 「川らしさ、川でしかできない高水敷の利用とは具体的に何か」（018）
- ◆ 2 - 2 - (1) 内湖の減少、干拓排水と沈殿物の堆積に関する記述、4 - 3 (1) 干拓と内湖の役割に関する記述、4 - 4 (1) 湿地・内湖の全面的見直し、浄化能力、保全復元に関する記述（022）
- ◆ 住民の生命財産が脅かされる場合、治水に関する理念の転換は無理。農業では渇水の危険性を含んだ計画の理解も無理（024）
- ◆ 河川管理者は、
 - 現行の治水計画の前提となっている基準（基本高水量、計画高水流量など）及び利水計画の前提である水需要予測について、流域住民らが議論に参加できるように、その基礎資料や設定手法に関する資料をすべて公開し、住民参加のもとで、その手法及び設定値の妥当性につき再検討を行うこと。
 - 河川整備計画策定にあたっては上記の見直しを含む複数の案を提示した上で、住民参加による議論を行うこと。
 - ダムの与える影響の重大性、不可逆性に鑑み、以上のような検討がなされるまでの間、建設中のダム建設事業についてはいったん凍結すること。（035）
- ◆ 高月町意見：
 - 最近における高時川は渇水時には完全に干上がり、農業用水はもとより伏流水で飲料水を求めている沿岸住民にとっては、きわめて不自然な状況に置かれている。また、当地域の沿岸は全国的にも特異な「堤外民地」が多く、耕地として利用されているが、一旦雨が降ると急激に増水し、そのたびに民地が流出するなどの大きな被害をこうむってきている。こうしたことから高時川沿岸の治水対策は緊急の課題になっており、淀川水系における丹生ダムの早期完成が治水、利水と併せて河川的环境整備に不可欠なものと確信している。
 - 農業用水確保に対する最低限の改善であり、毎年、長期にわたり河川に水がなく瀬切れしている極めて不自然な状況が改善されるわけでもない。さらに飯浦から揚水循環せざるを得ない状況は、琵琶湖の循環にとっても良くないといわれている。
 - 生活用水については近年の目覚ましい生活様式の変革により、渇水時に住民の意識変革だけで「節水行動」を促すことは今や現実問題として難しい。
 - 「治水、利水、環境」に配慮した「ダム」を一日も早く建設し、まず安全と安定、安心

する河川整備を行い地域住民とともに川の環境整備を整えていきたい。(037)

- ◆ 現状と背景：河川汚染が第一義的でその対策として下水道などの重要性を明示。(040)
- ◆ 伊香郡西浅井町：
 - 治水の現況：まだ地域住民が安心して生活できる水準にまで整備ができていない。「大川」は天井川で、破堤や越水の危険性が非常に高い。
 - 渇水対策：再利用に積極的な補助制度が必要。森林の健全な育成・管理が課題。
 - 河川環境の保全・整備：河川愛護作業の方法の検討が必要。活動助成が必要。
 - 農業集落排水事業により下水道事業は完了。これの維持管理あたり処理場の統合は必至。補助制度の創設が必要。(044)
- ◆ 丹生川に、あまりにも巨大な丹生ダムの建設は北湖の水質に壊滅的な打撃を与えるものと予想される。諫早湾・有明海と同じ結果は目に見えている。(046)
- ◆ 「外来魚の再放流・密放流の禁止」、「プラスチック・ワームの使用禁止」、「釣具などの放置禁止」、「釣り禁止区域の指定」などを罰則をも規制、「水上バイク・プレジャーボート」の使用に特定の内湖を。(050)
- ◆ 守山市民：
 - いろんな制約のもとで住民の思いと治水・利水・環境という機能を最大公約数的に満足させるような河川の姿が行政として究極の目的とするならば、そこには妥協とか調整といったものが生まれるはず。一定の制約下での相反するテーマに対し、どのように取り組み、今後どのように整備していくべきかについての具体的な提言に欠けている。治水の安全確保と環境の保全・回復をどのように調整し妥協して今後の河川整備を図っていくべきかについては深く議論する必要がある。
 - 環境問題に対する理想的な姿、あるべき姿は姿として、そのことと他の目的や現状を十分に踏まえ必要に応じてモニタリングによる検証をするなど柔軟で現実的な対応・調整ができないか。
 - 琵琶湖総合開発で造られた湖岸堤は琵琶湖と背後地を明確に遮断しようとしたこと。埋め立てによって汀線付近が民間によって乱開発された歴史があったから。琵琶湖総合開発が配慮した環境対策は水質保全対策ばかりではない。
 - 治水安全度を低下させることなく河川環境を回復させる手立てはないだろうか。(054)
- ◆ 余呉町：
 - これまで進められてきた治水、利水対策の現状や進められている環境を考慮した施策事業などが議論の中心となっていない。
 - あるていどの溢水を想定するやり方に変えるべきとされていることについて、当方としては洪水など少々の犠牲はやむを得ないとの見解にとれ、非常に無責任な方針と思われる。
 - 「本来の水辺らしい景観・風景の復活が必要である」、「利便性追求時代から再度、昔に戻った生活様式の改革」など地元が抱える自然条件の厳しさ、生活環境の不便さを無視した机上論に過ぎない。
 - (ダム建設について)30年来の努力を、わずか2年足らずの議論のみにおいて水泡に帰すような見直しは絶対に見とめるわけにまいりません。(060)

- ◆ 湖岸・水辺（湿地・内湖を含む）：
 - 生態系維持のうえで湿地の生物、特に微生物の果たす重要性を強調してほしい。
 - 湖魚の産卵・不可譲渡としての役割を強調してほしい。
 - 内湖の中でも西のヨシ地について、治水に名を借りた無用な破壊を防ぐこと。ヨシ刈り、ヨシ焼といったヨシ原の健全な維持管理が今後とも持続できる対策が必要なことに触れてほしい。（０６３）
- ◆ 神崎郡市民：
 - 永源寺ダムができて以来、30年が経過し、上流域での堆砂、下流域での川底低下、地下水の変化、濁水の発生、河川水の枯渇など時間が経つに従い予想以上の影響が現れている。
 - 特に利水計画においては環境面のマイナスを含めた費用対効果の検証を徹底するとともに、代替案との比較を行った計画策定を行うこととする。
 - ダムにより失われる水源涵養林のマイナス面、ダム下流河川での濁水によるレクリエーション機能の喪失による経済面の損失などを検証に入れるべきである。（０６６）
- ◆ 高島郡市民：
 - ダムによる洪水調節などとして、沿線住民の水害を防除、また利水対策を行うためにもダムの建設が必要かと思う。
 - ダムの建設については、生態系の環境にも十分に配慮して施設にする必要がある。（０６９）
- ◆ 日野町：
 - （河川事業）引き続き事業をお願いするものであります。
 - （農業用水事業）早期に整備を願っております。（０７３）
- ◆ 守山市：
 - 野洲川に関しては、川的环境破壊を加速し、水害に対する危機意識さえも低下させたという表現は、地域住民にとって、認めることはできない表現である。
 - 長い長い災害との戦いを続けてきた地域住民にとって、被害を容認するような治水対策は認めがたいものであります。（０８２）
- ◆ 大阪府南河内郡市民：節水誘導策として住民意識の変革に頼ることはまず難しいと思います。節水社会をつくるには水道料金の料金逦増方式を採用すること。（０８４）
- ◆ 今津町：
 - 未改修河川沿線の地域住民は、貴重な生命・財産を守るため目標とする洪水流量に対応できる治水対策を望んでいる。
 - 環境に配慮するあまり、用地買収などの面積が拡大し、河川改修計画が停滞している現状がある。
 - 今なお、農業水などにおける慣行水利権による河川水獲得の認識が強く、調整は困難を極めるものと考えます。（０８５）
- ◆ 志賀町：
 - 水需要予測について見直しが必要と考えられる。
 - 水需要は著しく増加している。使用水量は既得水利権の枠を越え水量不足の状態となっ

ている。

- 現在ある水利権の範囲内で水資源の有効活用を進めることは重要であるが、上水道、工業水道、農業水利などの需要予測を再確認し、既得権を含めた余剰水の創出を図るとともに、逼迫地域への再配分を行う必要性がある。(086)
- ◆ 中主町：
 - 治水についてはまだまだ早急な河川改修が必要と考えます。
 - 水不足の影響は甚大なもの。水の確保は最優先されるべきものと考えます。
 - 河川環境悪化の現状とこの状態を続けることによって出現するおぞましい未来を人々が十分に認識し、今後、進むべき方向を理解していただくことが大切。(087)
- ◆ 八日市市：
 - 治水と都市基盤整備を図るための排水問題の解決は、大きな課題となっています。
 - 治水の整備は不十分であります。
 - 今後とも河川改修は必要であると認識しております。
 - 永源寺ダムにより恩恵を受けているところではありますが、灌漑期を通して水不足しております。現在、国・県においては、愛知川第二ダムを計画していただいておりますが、反面当河川においても河川未改修部分が多く、治水と利水による事業の促進を要望しているものです。(088)
- ◆ 草津市:河川にはそれぞれの河川に特性を持っており、その地域にあった整備が必要であり、地域住民から河川整備計画の理解と安心を得ることもあるため、これらの平地河川化等についても、従来通りの河川整備計画に基づく早期着手をお願いしたく、柔軟な意見をお願いしたい。(091)
- ◆ 坂田郡市民:仕事の無くなったあるいは減った多くの建設技術者が河川や道路の環境と安全のための維持管理と緊急時の出動を仕事にしたいと結集している。(092)
- ◆ 彦根市：
 - 破堤回避対策を優先に行い、状況によっては、ある程度溢水を想定するやり方に変えるべきであるという考えは、一時改修が終わっていない河川についてはなじまないと考えます。
 - 芹川の治水：最善の手法として、ダムによる洪水調節が最善の方策と考えます。
 - ダム建設は、目に見えない多くの環境に影響を及ぼすことから建設地の地形などを考慮し、自然環境、制定系、水質、堆砂対策などに配慮した、環境への不可が最小限になるような施設に見直し、併せて、安全で安心できる地域の基盤整備を進めることを強く申し上げます。(093)
- ◆ 大阪市職員労働組合委員：流域の主権組織として「流域連合」設置、「流域整備計画」を策定、「統合的な流域管理」を管轄、全国基準と流域間調整(094)
- ◆ 高島町：
 - 「ある程度の溢水を想定する」といった将来河川の治水のあり方は、地域の住民の暮らしを守る責任者として、到底受け入れられない。
 - 琵琶湖の利水対策で、県民が目目の水を利水できないといったことは、よほどの代替利水対策を講じておかなければ、理解が得られない。
 - 新たな水源を地下水源対策も視野に入れた民生安定のためのシステムの構築を望むもの

であります。

- 「水資源は森林資源から」を提唱し自然林の保水力を高める治山と治水を一体的に考えながら、流域的に治水・利水ダムの整備が求められると考えています。
- 資源環境や生態系にこだわった結果として、野獣類が河川敷地に住みつき地域住民に不安を与えているといった現実もあります。
- また、天井河川を平地河川にすることが自然破壊といった場合は、住民が安心できる河川整備は進まないこととなります。(096)

◆ 野洲町：

- ライフラインである上水道の渇水重要は望ましいものではない。
- 農業用水においても、水が必要な時期に不足すると収穫に大きな影響が出るため、渇水重要は困難である。
- 河川改修：被害を受け、改善の要望があることから、湖のような個所の対策が改善されないまま溢水を想定するやり方への変更は困難である。
- 高水敷利用：一定利用については認める方向で願いたい。(100)

◆ 竜王町：

- 行政と住民が協力し、早期の天井川解消による日野川抜本改修の早期着手完了を切望しております。
- 渇水の不安におびえる住民にとって安全安心の生活を最優先として治水整備を考えることが重要であると思います。
- 自然にやさしい護岸なども当然必要と考えますが、安全で安心な住民生活が送れることが住民の最大の願いであり一刻も早い河川改修を要望しているものです。(102)

◆ 滋賀県：

- 治水：破堤回避対策を優先して溢水を許容すべきという考え方については浸水頻度に対する地元の合意形成、浸水した場合の責任と補償など、十分な議論が必要です。
- 利水：節水努力による効果を具体的な数値目標として行政計画に組み込むことは、困難である。数値目標の科学的根拠が必要。
- ダム貯水池計画：ダムの是非について見直し議論を行うにおいても、行政責任が将来にわたって継続されることを念頭に置くべきであり、十分な検討もなく安易に見直し議論を行うことについて、地元は不信・不安・不満を抱いており、こうしたことは現に憤るべきと考えます。法定計画である河川整備計画の議論を行うにあたって、このことをふまえ、地元と十分議論ができる仕組みが必要であると考えます。
- 水位管理：環境面について議論する場合には、目標とするべき自然環境とは何かについて明確にし、水位操作とこれらの因果関係を明らかにすべきと考えます。水位管理による影響については自然環境を含め、幅広く検討を行う必要があると考えます。
- 計画策定の考え方(琵琶湖総合開発事業)：それがもたらした効果をその後明らかになった負の影響を含めて評価した上で今後の計画のあり方を議論すべきです。
- 計画策定の考え方(流域センター、流域管理委員会)：それぞれの役割と責任を議論した上で、整理すべきと考えます。(103)

◆ 信楽町：

- 高水敷：画一的でなく、現場の状況を良く見極めた対応を望みたい。

- 水資源の有効利用：生活用水の安定的供給に努めなければならない上流区域が存在することを念頭に置いた対応を望みたい。
 - 水質の保全：必要な施設の整備については助成措置を講じるなどの措置が必要。(1 0 6)
 - ◆ 安土町：
 - 水位を自然の季節変化にゆだねるのは無理。
 - 湖水位の調節が周辺の関係市町村へ与えてきた影響などについて調査し、現状把握いただきたい。(1 0 9)
 - ◆ 虎姫町：高時川については丹生ダムが建設中であり、計画に沿った完成を望むものである。(1 1 2)
 - ◆ マキノ町：
 - 治水：本庁は未改修河川が多く、治水、利水面に照らし改修が緊要的な課題につき促進上地域住民の合意は得られない。
 - 自然環境への配慮：地方は少子高齢化となっており、都会人が親水、自然とふれあえる(ようなことを望むのは)無理がある。(1 1 3)
 - ◆ 山東町：田畑などの溢水はやむを得ないが住宅へは困ります。(1 2 0)
- 甲良町：水量について反復利用等の検討を行っているが充分ではない状況であり、上流域での有効活用の推進も考慮した整備計画としてほしい。(1 4 4)
- びわ町：
- 琵琶湖と流入河川、流入河川ごとの実態の違いなど実状の調査に重点を置いて計画のあり方を論じてほしい。
 - 治水：「溢水を想定するやり方」は洪水対策として安易すぎるのではないか。「破堤回避対策」として取り組む具体的の方策について、実体に照らした提起が必要。
 - 琵琶湖とそれに注ぐ川の特性と問題点：
 - ・ 当町では姉川への不法投棄が問題となっている。自然を残しながら管理するのは困難だが管理しなければ不法投棄が拡がり続ける。人が利用できる空間の整備と自然の保護のバランスが重要。
 - ・ 全体的問題である水質改善に向けて今まで以上に具体的に活動するよう計画すべき。
 - ・ 治水について、災害を未然に防止するための早急な調査と措置が重要。
 - ・ 様々な問題が漁業に与える影響は深刻。河川管理の問題は漁業者にとって死活問題。
 - 適切な計画の策定・進め方：「管理ができないこと」を「自然」と言い張るのは逃避である。川を自然な状態で適正に管理していくにはどうすれば良いのか、その方向性を具体的に示し、河川整備計画に反映して頂きたい。(1 4 5)